

令和6年度事業報告

◎ 令和6年度事業の概要

当会は、誰もが住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう、地域福祉活動計画に基づき事業を進めておりますが、近年は少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、地域のつながりや支え合いが希薄化し、人々が抱える生活課題は益々複雑・多様化していることから、引き続き、地域支え合いの仕組みづくりを進めるとともに、新たに第2期地域福祉活動計画の策定に取り組みました。

福祉サービス事業では、令和6年3月の通所介護事業の廃止により事業収支は大幅に改善しましたが、残る介護事業（居宅介護支援事業、訪問介護事業）と障がい児通所支援事業においても、経営改善計画に沿って事業の見直しを行い経営改善に努めました。

経営面においては、令和2年度に策定した経営改善計画に沿って事業を進めるとともに、令和7年度からの新たな経営改善計画及び第3期発展強化計画を策定し、組織ガバナンスの強化、自主的財源の確保、地域福祉の推進、事業運営の透明性の確保などをさらに強化して社会福祉法人としての経営基盤の強化を進めることで経営の健全化と安定に努めました。

以下、令和6年度事業計画に沿った推進項目について報告します。

「重点事項」

● 第2期地域福祉活動計画の策定

地域福祉活動計画策定に係る懇談会やアンケートの実施及び岩見沢市地域福祉計画との整合性を図り、様々な地域課題に対応するため、行政をはじめ地域住民やボランティア、福祉団体など関係機関と連携・協働した地域福祉の推進を計画的に進めるための第2期地域福祉活動計画を策定した。

● 運営基盤の強化と財源確保

本会に寄せられる会費や寄付金が減少傾向にある中、安定的な自主財源を確保するため、商工会議所等への協力依頼、広報紙やイメージキャラクター「ざわたま」を積極的に活用して会員の募集を行った。

また、職員が自ら積極的に行動し役割を的確に遂行できるよう、各種研修会・講習会に参加し、職員の意識改革と資質向上による組織内部の強化に努めた。

今後の組織体制並びに財政基盤の強化を継続的に進めるため、第3期発展強化計画を策定した。

● 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化

介護事業等の福祉サービスについては、計画に沿って経営の改善と業務の効率化を進めた。この結果、訪問介護と児童発達支援（つみき園）事業では介護報酬等が昨年に比べ増収となり、サービス事業全体の収支も昨年度を上回った。

1 地域福祉の推進

社会情勢の変化や福祉ニーズが多様化・複雑化するなか、課題解決に向けた住民主体の福祉活動の取り組みをより一層推進するため、第2期地域福祉活動計画を策定した。

また、行政をはじめ地域住民、ボランティア・福祉団体等と協働のもと、ボランティアの育成や災害ボランティアセンター運営訓練、児童・生徒の福祉学習支援、高齢者や障がい者の権利擁護支援など、地域福祉の推進に努めるとともに、物価高騰等の影響により、生活困窮者からの相談が増加するなか、自立支援機関等と連携しながら、食料品等の現物給付や必要な生活資金の貸付など、制度の狭間への対応を行い、生活困窮者の生活安定・自立に向けた支援に努めた。

さらに、地域福祉事業の効率的かつ効果的な事業の実施に向け、法人経営検討委員会において引き続き事業の見直しを進めるとともに、地域福祉事業を支える共同募金運動の推進に努めた。

(1) 第2期地域福祉活動計画の策定【重点】

地域福祉活動計画策定に係る懇談会やアンケートの実施及び岩見沢市地域福祉計画と整合性を図り、様々な地域課題に対応するため、行政をはじめ地域住民やボランティア、福祉団体など関係機関と連携・協働した地域福祉の推進を計画的に進めるための第2期地域福祉活動計画を策定した。

□法人経営検討委員会 3回

□懇談会 4地区・アンケート調査 106団体

(2) 地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有

①地域福祉懇談会の開催

地域の現状を把握し生活課題を共有することで、住民主体の福祉活動の重要性の認識を深めるとともに、当会が実施する地域福祉事業の理解促進に努めた。

なお、今年度は地域福祉活動計画策定に係る基礎資料とすることを目的に開催した。

□開催回数 4回（北村地区・栗沢地区・東地区・緑が丘地区町会連絡協議会）

②実施事業からのニーズ調査

各実施事業・講座ごとにアンケート調査を行い、ニーズに沿った事業展開や講座内容の充実を図るため、検討を行った。

□アンケート実施回数「地域福祉活動推進セミナー」他 26回

(3) 相談支援体制の充実

①各関係機関等との連携強化

様々な相談に対応するため、各相談機関の会議等に参加し、連携強化に努めた。

□出席回数 42回「生活サポートセンターりんく支援調整会議」他

②民生委員児童委員との連携

民生委員児童委員協議会役員会及び定例会に参加し、各種事業の説明等を行うとともに、市民から寄せられる困りごとについて情報共有を図るなど、民生委員児童委員

との連携を深め、地域における相談支援促進に努めた。

③部署間横断の相談支援の充実

市民の多様な生活課題の解決に向け、社協内の部署間で情報共有・連携を図り、適切な助言・支援に努めた。

(4) 地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進

①小地域福祉ネットワーク活動事業

小地域（ふれあい推進協議会・地区協議会・町会等）を基盤として展開する地域住民による見守り、安否確認活動や身近の世話等の日常生活支援活動に対して、助成支援を行い、地域における支え合い活動の活性化に努めた。

□助成金 2,824,580 円

②町会等除雪ボランティア支援事業（岩見沢市からの受託事業）

自力で除雪が困難な独居高齢者世帯や身体障がい者世帯等の要援護者世帯に対し、地域のボランティアによる玄関前等の除排雪活動に助成支援を行い、地域住民同士の支え合い活動の充実を図り、冬期間における要援護者世帯の日常生活の安全確保に努めた。

□対象世帯 1,016 世帯 助成金 5,953,560 円

③除雪ボランティア派遣事業

自力で除雪が困難、かつ家族や親類等からの協力が得られない高齢者世帯や身体障がい者世帯などの要援護者世帯に対して、除雪ボランティアを派遣し、間口の拡幅や暖房器具の給排気筒付近の除雪支援を行った。

□登録者・登録団体 個人 13 人・4 団体

□支援世帯数 23 世帯

④地域ふれあいサロン事業

高齢者や障がい者及び子育て中の親子など、外出の機会が少ない方々の閉じこもり予防や仲間づくり、生活課題の把握等を目的に、サロンの立ち上げ支援や活動者研修交流会の開催、他機関の助成金等の情報提供を行い、事業の活性化を図るとともに出張ふれあいサロンの周知活動を行うなど、地域交流活動の普及に努めた。

ア 地域ふれあいサロン活動支援

サロン立ち上げに必要な費用及び当面の運営費に対する助成を行い、地域住民が主体的に運営できるよう活動支援を行った。

□登録サロン数及び助成金額

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
登録サロン数	21 団体	22 団体	23 団体
助 成 金 額	28,000 円	64,000 円	100,000 円

※令和 6 年度 新規ふれあいサロン 1 団体（くりさわはつらつサロン）

イ 出張ふれあいサロンの開催

サロン未実施地区への声掛け、民生委員児童委員協議会や保健推進員の会合にお

いて出張ふれあいサロンの説明やチラシを配付するなどの周知活動を行ったが、依頼はなかった。

ウ 地域ふれあいサロン活動者研修交流会

サロン活動に活用できるレクリエーションの体験演習及び活動者同士による情報交換などを通して、実践者同士のネットワークを構築し、サロン活動の継続支援と更なる活動内容の充実を図った。

□6月7日 参加者 23人

⑤レクリエーション用具貸出事業

当会広報紙やホームページでレンタルカタログの周知や研修会等の会場内にレクリエーション用具の展示などを行い、利用促進に努めた。

□貸出件数 96件

⑥福祉団体等の活動支援

障がい者等の福祉団体へ活動費助成を行い、団体の使命や特色を活かした活動の活性化に努めた。

□8団体 240,000円

⑦高齢者趣味と教養・健康増進支援事業

岩見沢市老人クラブ連合会主催の各種事業に対し助成を行い、高齢者が個々の技能や趣味を活かした社会参加を通じ、仲間づくりや生きがいの場づくりをする活動を支援した。

□6月8日 岩見沢市高齢者文化祭 助成金 20,000円 参加者 600人

□6月29日 シニア交流ウォーキング大会 助成金 80,000円 参加者 64人

□11月15日 囲碁将棋大会 助成金 20,000円 参加者 26人

(5) 地域福祉への理解促進

①地域福祉出前講座

町会・自治会をはじめとする福祉団体等からの要望に沿って、当会職員等が講師となり「地域福祉出前講座」を実施し、地域住民の福祉に対する関心を深めるとともに社協事業の理解促進を図った。

□出前件数 7件「社会福祉協議会の活動について」他

②社会福祉功労者表彰の実施及び推薦

地域福祉活動及びボランティア活動に永年にわたり功労のあった個人・団体や当会に多額の寄付をされた方、市内の福祉団体・施設において永年にわたり勤務された方に対して、その功績を讃え表彰式を行った。

また、活動を通じて社会福祉に貢献された市内各社会福祉関係者及び団体を厚生労働大臣表彰をはじめ、北海道社会貢献賞、岩見沢市の福祉活動功労者表彰などへ推薦を行った。

ア 岩見沢市社会福祉協議会 社会福祉功労者表彰

(敬称略)

功績表彰	吉田 邦子	小林 利子	園田 稔
	松崎 美子	黄瀬 昌子	竹中 静江
	吉村 公子	宮崎 君子	笹島 綾子
善行感謝	中田 詳子	加藤 勇	大橋 弘道
	神 隆志	山方 毅	白石 尚子
ボランティア功労賞	幌向ボランティアこのゆびとまれ		
永年勤続表彰	上原 郁江	加瀬谷 恵	有澤 寿美子
	清水 千恵美	秦 栄子	吉田 千幸
	佐藤 善樹	高木 理奈	松浦 香織
	千葉 敬一	上田 香里	三野宮 みちよ
	住吉 隼輔	阿部 育子	矢本 己奈
	前谷 琴美	中田 萌美	小川 剛治
	今泉 裕樹	庄司 裕香	橋本 裕介
	瀧 直美	小國 美保	増田 敬一
	南 千秋	高田 香	吉田 有希
	野尻 富美恵		

功績表彰 (9人)・善行感謝 (6人)・ボランティア功労賞 (1団体)・
永年勤続表彰 (28人)

□10月31日 岩見沢広域総合福祉センター

イ 厚生労働大臣表彰

岩見沢さつきの会 (ボランティア功労)

□1月15日 岩見沢広域総合福祉センター

ウ 北海道社会貢献賞

幌向ボランティアこのゆびとまれ (地域活動推進功労者)

□10月23日 ホテルポールスター札幌

エ 北海道社会福祉協議会会長表彰

北垣 菊恵・村田 美輝子・辰己 文恵・武田 克美 (社会福祉協議会職員功労者)

□11月13日 当社協を通じて贈呈

オ 岩見沢市福祉活動功労者

仲田 敏博・中川 美知子・黄瀬 亜弥・若林 みゆき・山本 靖子

□10月31日 岩見沢市役所

カ 北海道共同募金会表彰

岩見沢女性ドライバー部会・早川建設資材株式会社 (優秀団体)

□10月29日 北海道社会福祉大会の席上

キ 共同募金運動功績者

幌向ボランティアこのゆびとまれ・岩見沢市立第二小学校・NPO法人麦の芽会

□表彰式なし

(6) ボランティアセンターの機能充実

①ボランティアセンター運営事業

市民から寄せられるボランティアに係る相談支援やボランティア派遣に係る調整を行うとともに、ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、広報紙やホームページ等による情報発信を行い、ボランティア活動の促進に努めた。

また、ボランティアセンター運営委員会及び運営部会を開催し、各関係機関等との協力関係を深め、ボランティアセンター運営の充実に努めた。

□運営委員会の開催（2回）・運営部会の開催（11回）・定例会の開催（12回）

ア ボランティア登録団体・個人数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
登録団体数	27 団体	25 団体	24 団体
登録個人数	10 人	8 人	9 人

イ ボランティア相談・連絡調整件数

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
相談件数	8 件	25 件	36 件
連絡調整件数	6 件	17 件	20 件

ウ ボランティア派遣支援

車いす介助等のボランティア派遣を行い、高齢者や障がい者など、その家族の日常の負担軽減を図った。

□派遣人数 33 人

②広報紙「おもいあい」の発行

ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター広報紙「おもいあい」を市内の公共機関等に設置し、ボランティア情報及び活動の周知啓発に努めた。

□発 行 3回発行（7月号・11月号・3月号）

□発行部数 7月号1,200部 11月号1,200部 3月号1,100部

□設 置 先 83か所

③各種研修事業への参加促進

各会議等に参加し、ボランティアに係る先進的事例等の情報収集や研究討議を通じて、ボランティア活動の資質向上に努めた。

開催日	研修会等名	参加者数
9月28日	ボランティア愛ランド北海道2024in えべつ	18人
12月19日	令和6年度ボランティア強化セミナー	1人
2月14日	令和6年度空知地区ボランティア活動推進会議	1人
2月14日	令和6年度空知地区ボランティア活動推進セミナー	26人

(7) 地域を支えるボランティアの育成

①各種ボランティア養成講座の開催

各種ボランティア養成講座などを通して、福祉への理解と関心を深め、地域福祉活動やボランティア活動を担う新たな市民の育成・発掘に努めた。

ア ボランティア体験講座

ボランティア活動に興味・関心がある方、ボランティア活動を始めたいと考えている方を対象に、ボランティアセンター登録団体と協働して、様々な分野のボランティア体験講座を開催し、ボランティア意識の向上及び活動へのきっかけづくりを行った。

□7月23日～8月6日（全8回）受講者72人

イ 音訳ボランティア講座

視力障がい者に対する理解と音訳についての知識及び技術等を学習し、視力障がい者を支援する音訳ボランティアの養成を行った。

□9月2日・9月4日（全2回）受講者9人

ウ 手話奉仕員養成講座

聴覚障がいに対する理解促進と聴覚障がい者の社会参加、日常生活を援助する手話奉仕員の養成を行った。

□入門編 昼の部 4月16日～8月6日（全23回）受講者9人 修了者9人

夜の部 4月16日～8月6日（全23回）受講者13人 修了者11人

□基礎編 8月24日～2月8日（全22回）受講者15人 修了者11人

エ 心に寄り添う傾聴講座（旧：傾聴ボランティア講座）

ボランティア活動に必要な傾聴に対する知識と技術、心構えなどの理解を深め、地域や施設において活動する傾聴ボランティアの養成を行った。

□10月3日・17日（全2回）受講者16人

オ 知ってみよう！精神保健を学べる講座（旧：精神保健ボランティア講座）

精神障がいへの理解を深め、精神障がい者が豊かな地域生活を送ることができるように、その橋渡し役としての精神保健ボランティアの養成を行った。

□6月20日・27日 受講者10人

②ボランティア活動者研修会・交流会の開催

ア ボランティア活動者研修会

ボランティアセンター登録団体及び個人活動者が、地域に根付いたボランティア活動のあり方などを学び、今後のボランティア活動のスキル向上と充実を図った。

□3月7日 参加者39人

イ ボランティア活動者交流会

ボランティア活動者が一堂に会し、情報交換や交流を通して、様々な分野のボランティア活動の状況把握や活動者同士のネットワークづくりなど、今後のボランティア活動の充実を図った。

□6月28日 参加者61人

11月19日	緑中学校	3年生105人	聴覚障がい者の講話、手話体験
11月27日	日の出小学校	6年生 55人	視覚障がい者の講話、点字体験
11月28日	日の出小学校	2年生 32人	聴覚障がい者の講話、手話体験
11月29日	月形小学校	3年生 11人	聴覚障がい者の講話、手話体験
12月 4日	第一小学校	5年生 59人	車いす利用者との交流、車いす体験
12月11日	日の出小学校	1年生 40人	聴覚・視覚障がい者の講話
12月12日	日の出小学校	3年生 47人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
1月23日	第二小学校	3年生 17人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
1月27日	中央小学校	3年生 49人	聴覚障がい者の講話、手話体験
1月28日	第二小学校	4年生 50人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2月 4日	第二小学校	5年生 31人	高齢者の講話、高齢者疑似体験
2月 6日	第二小学校	6年生 22人	車いす体験
2月12日	北村中学校	1年生 16人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2月14日	南小学校	6年生 68人	聴覚障がい者の講話、手話体験
合計	9校22回	938人	

(9) 地域における権利擁護の推進

①日常生活自立支援事業（北海道社会福祉協議会受託事業）

判断能力に不安がある認知症高齢者、知的・精神障がい者等に対して、福祉サービス利用援助や日常的金銭管理等を行い、自立した地域生活を送ることができるよう支援した。

本事業の担い手である生活支援員の資質向上を図るための研修会を開催した。

ア 利用契約者等件数

区 分	認 知 症 高 齢 者	知 的 障 が い 者	精 神 障 が い 者	そ の 他	合 計
相 談 件 数	822 件	189 件	556 件	5 件	1,572 件
新規利用契約件数	4 件	2 件	0 件	0 件	6 件
解 約 件 数	3 件	0 件	2 件	0 件	5 件
利 用 契 約 件 数	8 件	6 件	4 件	0 件	18 件
生活支援員登録者数	33 人(新規登録3人 登録辞退1人)				
生活支援員活動者数	15 人(年度末時点)				

イ 生活支援員研修会【北海道社会福祉協議会主催】

開催日	内 容	参加者数
令和6年10月10日	説明「日常生活自立支援事業における担い手の役割」 講義「発達障がいの理解について」	7人

②成年後見支援センター事業（岩見沢市受託事業）

権利擁護全般に関する相談支援や成年後見制度の申立手続支援を行うとともに、市民後見人の活動支援として法人後見事業を実施し、法人後見支援員（市民後見人）とともに、成年被後見人等に対して身上保護及び財産管理を適切に行った。

成年後見制度の普及啓発を図るため、市民向け講演会の開催や出前講座の講師派遣を行うとともに、市民後見人の養成に取り組み、担い手の確保に努めた。

法人後見支援員の意欲と支援能力の向上を継続的に図ることを目的に研修会を開催するとともに、法人後見支援員自主活動グループ「岩見沢市民後見人の会」の運営を支援した。

ア 相談・申立手続支援

相談支援件数	新規相談	112件	計 758 件
	継続相談	646件	
申立手続支援件数	今年度中に申立に至った件数（実件数）		10件

イ 成年後見支援センター運営協議会・事例検討会

開催日	会議名	出席者数
令和6年7月17日	第1回成年後見支援センター運営協議会	13人
令和6年10月30日	第2回成年後見支援センター運営協議会	15人
令和6年7月17日	第1回成年後見支援センター事例検討会	10人
令和6年10月30日	第2回成年後見支援センター事例検討会	9人
令和7年2月28日	第3回成年後見支援センター事例検討会	9人

ウ 市民後見人養成講座

講座名	開催日	受講者数	修了者数
市民後見人養成講座 （基礎編）	令和6年9月24日～10月15日 毎週火曜日 全4日間	4人	4人
市民後見人養成講座 （フォローアップ編）	令和6年10月29日～11月26日 毎週火曜日 全5日間	5人	5人

エ 法人後見受任状況

新規受任件数	1件
受任終了件数	2件
継続受任件数	19件

オ 法人後見支援員の登録と活動状況

法人後見支援員登録者数	43人（新規登録8人 登録抹消6人）
法人後見支援員活動者数	22人（年度末時点）

カ 法人後見支援員スキルアップ研修会

開催日	内 容	参加者数
令和7年3月19日	講義「江別市における市民後見人活動について」 講師 社会福祉法人江別市社会福祉協議会 江別市成年後見支援センター 主任相談支援員 平塚 巧也 氏 報告「私の市民後見人活動について」 講師 江別市市民後見人 松澤 文夫 氏 江別市市民後見人 藤森 政師 氏 情報交換「江別市の市民後見人に聞いてみよう」	18人

キ 法人後見支援員自主活動グループ「岩見沢市民後見人の会」

開催日	会 議 名	参加者数
令和6年5月24日	定期総会	23人
令和6年5月24日	第1回定例会	21人
令和6年9月2日	第2回定例会	15人
令和6年11月15日	第3回定例会	14人
令和7年2月28日	第4回定例会	13人

ク 成年後見制度講演会

開催日	内 容	参加者数
令和6年11月24日	講演「身近な事例で学ぶ 成年後見制度のしくみ と使い方」 講師 末長法律事務所 弁護士 末長 宏章 氏	34人

(10) 生活困窮者等への支援

①生活福祉資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

他の貸付を受けることができない低所得者や高齢者、障がい者世帯に対し、民生委員児童委員や岩見沢市生活サポートセンターりんく等の関係機関と連携を図り、必要な資金の貸付と相談支援を行い、生活困窮者世帯の経済的自立や生活意欲の促進に努めた。

また、コロナ特例借入者に対する償還猶予・免除等の相談及び申請手続支援を行うとともに、滞納世帯への生活状況等の確認や必要な支援機関等に繋げた。

□相談件数 延べ307件

□貸付件数・金額

資金種類	貸付件数	貸付金額
教育支援資金	5件	4,190,000円
緊急小口資金	4件	350,000円
合 計	9件	4,540,000円

②特別生活資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

福祉年金等の所得が支給停止限度額以下の高齢者世帯、障がい者世帯などに対する暖房費など冬期の生活に必要な資金の貸付を行った。

□1件 50,000円

③愛情銀行緊急生活費交付事業

やむを得ない事情により、緊急に生活費が不足した世帯に対し、緊急生活費の貸付支援を行った。

□14件 263,250円

④安心サポート事業

制度の狭間で生命に関わる緊急的な支援を要する世帯に対し、岩見沢市生活サポートセンター等と連携を図りながら、食材などの現物給付を行い、生活困窮者の自立支援に努めた。

□8件 136,059円

⑤法外援護事業

生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金貸付や金銭不所持者等の送還旅費交付を市福祉事務所を通じて行い、制度の狭間である困窮者の支援に努めた。

□生活つなぎ資金 52件 518,000円

□送還旅費 2件 1,940円

(11) 災害ボランティアセンターの組織整備

①災害ボランティアセンター体制の整備

災害ボランティアセンターに係る研修会に担当職員が参加し、災害時における被災者ニーズや支援、必要な情報発信などについて理解を深め、職員の資質向上に努めた。

また、北海道社会福祉協議会から大雨災害による被災地社協支援に係る職員派遣要請に対して、当会職員1名を山形県酒田市災害ボランティアセンターに派遣し、被災地支援活動を行った。

□派遣期間 8月17日～8月22日

□派遣職員 地域福祉係 主事 鈴木 慎之介

②災害ボランティアセンター体験研修会の開催【災害VC設置運営訓練と同時開催】

岩見沢市災害ボランティア事前登録者等と協働した、災害ボランティアセンター運営体験訓練を実施し、災害ボランティア活動の理解促進と当会職員の災害ボランティアセンターの運営に対する資質向上に努めた。

□12月7日 参加者37名

(12) 共同募金運動への協力

岩見沢市共同募金委員会事務局として、北海道共同募金会と連携し、町会や企業、関係団体等に共同募金の理解促進を図りながら、各種募金活動を行い、地域福祉活動の財源である共同募金運動の推進に努めた。

□実績額

区 分	令和5年度	令和6年度	増 減
赤い羽根共同募金	6,532,352円	6,565,749円	33,397円
歳末たすけあい運動	5,741,414円	5,398,055円	△343,359円

(13) 行政や関係機関・団体との連携

地域における多様な生活課題や福祉ニーズに応えるため、行政や関係機関等と情報共有等を行い、それぞれの立場や役割を理解し、連携・協働による地域福祉の推進に努めた。

2 運営基盤の強化と財源確保【重点】

会費や寄付金、共同募金の配分金が減少傾向をたどっており、収支のバランスが悪化していることから、更なる業務の効率化やコスト削減を行うとともに、安定的な自主財源の確保のため、岩見沢商工会議所やいわみざわ商工会加盟の各企業等に企業会員・特別会員への入会を依頼し新規会員の確保に努めた。

(1) 第3期発展強化計画の策定

組織体制や財政基盤の強化と今後の事業展開の中期的な目標・方針を明確にし、安定的に活動が継続できる様に、令和7年度から令和11年度までを期間とする、第3期発展強化計画を策定した。

(2) 社会福祉協議会を取りまく動向等の調査、検討

①福祉情勢の把握

北海道社会福祉協議会や北海道社協職員連絡協議会等が主催する講習会や研修会に積極的に参加し、国の社会福祉制度や施策の動向等の把握に努めるとともに、これからの地域福祉の在り方について理解を深めた。

②地域課題の把握と他社会福祉協議会との連携

空知管内社会福祉協議会連絡協議会をはじめとした他社会福祉協議会と連携し情報交換した。

(3) 人材の育成

①職階別に応じた研修の実施

役員の外部研修参加を促進するとともに、職員が各自の職務を的確に遂行できるよう、各種研修会やオンライン研修に積極的に参加し、意識改革や資質向上に努めた。

②各種研修会・講習会等への参加

各種研修会・講習会に積極的に参加し、専門的な知識や技術を身につけ、サービスの向上に努めた。

③職場研修の実施

- ・社協連絡会
- ・メンタルヘルス研修会
- ・ホームヘルパー内部研修
- ・ケアマネージャー内部研修

(4) 財源確保への取り組み

①社協会員加入の促進

社会福祉協議会の活動に対する理解者を増やすとともに、自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行い、岩見沢商工会議所やいわみざわ商工会加盟の各企業等に依頼し新規会員の確保に努めた。

②共同募金活動の効果的な展開

岩見沢市共同募金委員会と連携を図り、封筒募金をはじめ各種募金活動を行うとともに、岩見沢商工会議所及びいわみざわ商工会加盟の企業等に対し、法人募金や寄付金付きピンバッジの協力依頼の実施、さらに企業訪問や電話にて、赤い羽根自動販売機、募金箱の設置依頼など、新規協力先の開拓に努めた。

また、市内イベント会場内に募金ブースを設置するとともに、各関係機関・団体等の会合に出席し、共同募金の理解と協力の呼びかけや新規にQRコード決済（Pay Pay）による募金を実施し、共同募金運動の推進に努めた。

内 容		金 額
香典返し寄付金	32 件	1,055,000 円
一般寄付金	29 件	810,473 円
一般会員（1世帯年額 100 円 237 町会 25,058 世帯）		2,505,800 円
特別会員（1口年額 5,000 円 55 団体 87 口）		435,000 円
賛助会員（1口年額 1,000 円 321 人 495 口）		495,000 円
企業会員（1口年額 10,000 円 52 社 58 口）		580,000 円
共同募金	赤い羽根共同募金	6,565,749 円
	歳末たすけあい運動	5,398,055 円

3 社会福祉協議会の活動への理解促進

(1) 広報活動の充実

①広報紙「社協だより」の発行

市民の当会への認知度を高めるため、地域福祉活動をはじめ各種事業紹介の特集記事を掲載するなど、紙面の工夫や内容の充実を図り、全世帯に配付することで当会事業の具体的な内容と福祉情報を広く周知した。

□発行回数 年 3 回（7 月・12 月・3 月）

□発行部数 各回 32,400 部

②ホームページを活用した情報発信

各種事業に関する取り組み状況（進捗状況）や講座開催予定について、適宜、ホームページに掲載するとともに、開催結果についても開催の様子が分かる写真を取り入れるなど、具体的な情報発信に努めた。

③イメージキャラクターの活用

幅広い世代に興味・関心を持ってもらうとともに、社会福祉協議会のイメージアップのため、社協だよりやホームページ、封筒、のぼりや窓用ステッカー等、市民の目に留まるものにぎわタマを活用し、さらに主催セミナーや各種行事、講座参加者へグッズを配布するなど、広報活動に活用した。

4 日常生活用具の助成・物品貸出事業

(1) 日常生活用具の助成

愛情銀行の財源を活用し、日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に助成を行った。

また、市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄付及び預託を受け、真に必要とする方々への提供を行った。

杖助成 17人

アイスピック助成 15人

愛情銀行物品預託・払出状況 別紙のとおり

(2) 物品貸出事業

一時的に車椅子が必要になった方や、福祉教育等に車椅子の貸出を行うとともに、イベント等に行事用テントの貸出を行った。

車椅子貸出状況

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	65件	76件	85件
台数	100台	114台	179台

5 施設の適正な管理運営

岩見沢広域総合福祉センターについては、地域福祉活動の拠点施設として活用されるよう、福祉・ボランティア団体等の利用者の利便性向上を図るとともに、独自の基準で施設の利用を制限するなど新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めた。令和6年1月1日からは、利用者のマスク着用やセンター利用時の食事について個人の判断としたが、引き続き感染拡大防止対策を講じた中で管理運営を行った。

また、不特定多数の利用者が出入りしており、不審者の侵入を防止する効果が期待できる防犯カメラを設置し、利用者が安心して利用できるよう努めた。

引き続き、岩見沢市から指定管理者として管理運営を行っている「岩見沢市高齢者福祉センター」、は、公共施設としての設置目的を踏まえながら、利用者にとって親しみやすい施設となるよう、適正な管理運営に努めた。

(1) 岩見沢広域総合福祉センター

①開館時間及び休館日

開館時間	午前9時～午後9時
開館日数	335日
休館日	毎月第2、第4日曜日及び12月29日～翌年1月3日

②消防避難訓練等の実施

令和6年7月26日	消防避難訓練
令和6年11月7日	避難訓練

③施設の改修・修繕

(ア) 気中開閉器及び高圧ケーブル取替工事
(イ) ドアクローザー（研修室1）取替
(ウ) 女子和式便器（2階）漏水修理
(エ) 女子便器タンク（2階）取替修理
(オ) 倉庫防水引込カバー破損改修

④年度別利用人員及び年度別年間使用料収入状況

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用人員	28,701人	31,289人	30,943人
1日平均利用人数	85.4人	93.1人	92.3人
使用料収入	776,820円	747,900円	757,180円

⑤年度別用途別利用数

(単位：件)

区 分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料
会 議	53	316	74	289	94	294
集 会	1	1	2	8	0	0
講 習	19	89	68	112	36	87
研 修	2	38	47	151	84	135
例 会	208	207	91	103	41	129
そ の 他	11	304	14	268	7	294
小 計	294	955	296	931	262	939
社協・町連 母子寡婦福祉会 更生保護サポートセンター	342	1,256	321	1,197	299	1,318
合 計	2,847		2,745		2,818	

(2) 岩見沢市高齢者福祉センターふれあい（指定管理施設）

①開館日及び利用時間

受託日	令和6年4月1日
開館日	月曜日～土曜日まで
開館日数	293日 ※入浴（令和2年2月26日から休止中）
利用時間帯	午前9時～午後5時まで

②利用者数

区分	一般		部会等		合計	
利用人数	3,468人		12,055人		15,523人	
男女別利用人数	男性	1,483人	男性	6,080人	男性	7,563人
	女性	1,985人	女性	5,975人	女性	7,960人
1日平均	11.8人		41.1人		52.9人	

③趣味と教養部会利用状況

部会名	利用回数	利用人数	部会名	利用回数	利用人数
ゆるゆるストレッチ	36回	258人	いきいきサークル	50回	934人
パソコン同好会	24回	213人	民謡踊部会	41回	449人
俳句部会	12回	90人	華道部会	17回	96人
太極拳	18回	92人	コスモスの会	11回	48人
卓球部会	50回	1,873人	ふまねっと部会	23回	202人
書道部会	47回	316人	こぶしクラブ	47回	706人
太鼓部会	33回	266人	游游カラオケ部会	32回	461人
木彫部会	25回	68人	陶芸部会	185回	1,757人
ダンス部会	46回	488人	囲碁同好会	242回	2,278人
茶道部会	20回	130人	将棋愛好会	237回	902人
謡吟会	3回	3人	小計	1,240回	11,914人
マロニエ	41回	284人	オモチャの病院	49回	141人
合計				1,289回	12,055人

④主な行事

	開催した行事	中止した行事
(ア)趣味と教養部会		<ul style="list-style-type: none"> ・展示発表会 ・舞台発表 ・呈茶席 ・ふまねっと体験教室
(イ)その他	・ふれあいまつり	

6 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化【重点】

経営改善計画に基づき、職員体制・サービス管理体制の整備を進めた結果、訪問介護と児童発達支援（つみき園）事業では、処遇改善加算等の申請により、介護報酬・サービス事業報酬が増加し、また、居宅介護支援事業では業務の効率化や経費削減に努めたことで大幅に収支が改善し、福祉サービス事業全体の収支額も増え経営の安定化と健全化をさらに進めることができた。

(1) 居宅介護支援事業

利用者個々の生活状況や課題を把握し、本人のニーズに沿った適切な居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、介護サービスの調整に務めるとともに、家族による在宅ケアの負担軽減等にも努めた。

地域包括支援センター及び医療機関並びにサービス事業所等と連携を図り、利用者が可能な限り在宅生活が継続できるよう支援に務め、また、積極的に新規利用者の受入れにも努めた。

令和6年度の介護報酬改定により、高齢者虐待防止等の推進及び適正化を図る観点から、道社協主催の研修に参加し、虐待が疑われるケースの対応について理解を深めた。

また、地域包括支援センターや岩見沢保健所等が主催するヤングケアラー、難病ケア、権利擁護等の事業所として必要とする研修を職員一同が積極的に受講し、スキルアップに努めた。

事務の効率化や経費削減を図るため、国が推進する「ケアプランデータ連携システム」については、特に進展等はなかったが法制化等に向けて対応できるように市内の事業所や医療機関等と情報共有ができた。

区 分	令和5年度	令和6年度	増 減
要介護利用者数	2,444人	2,129人	△315人
予防利用者数	326人	326人	0人
要介護月平均利用者数	203.7人	177.4人	△26.3人
予防月平均利用者数	27.2人	27.2人	0人

(2) 訪問介護事業

令和6年度は、処遇改善加算・特定処遇改善加算に加え、ベースアップ加算の申請を行い、また、6月からは新処遇改善加算I（旧3加算を合わせたもので、新加算の中では最上位加算）の申請を行うことで、収益の増加に努めた。

令和5年度に続き、市内居宅介護支援事業所にPRパンフレットを作成して配布したり、積極的に事業所を廻り情報交換を行う中で、新規利用者を紹介してもらえるよう営業活動に努めた。

また、パートヘルパーの確保については、3名の退職者が出た中、ハローワークや社協だよりでの募集、広告代理店に委託し求人誌を活用した事で4名のパートヘルパー

を採用することができた。

利用者サービスについては、介護ヘルパーの全体研修に加えて、オンライン研修における新コンテンツを取り入れる事で、職員個々の資質向上を更に図り、利用者のサービス向上につなげることができた。

①訪問介護事業と介護予防・日常生活支援総合事業

日常生活に支障ある要介護状態の高齢者等に対し、訪問介護計画書に基づき訪問介護員を派遣し、可能な限り自立し、自分らしい日常生活を送られるよう、生活全般にわたるサービス提供を行った。

また、サービス提供責任者が定期的に利用者宅を訪問し、利用者や家族等から要望を聞き取る等してサービス向上に努めた。

要支援者に対しても上記同様、介護予防・日常生活支援総合事業により、自立の可能性を引き出し、生活意欲を高めながら、介護状態にならずに在宅生活が続けられるようにサービス提供を行った。

区 分	令和5年度	令和6年度	増 減
利用者数	1,176 人	1,108 人	△68 人
延利用回数	7,272 回	6,914 回	△358 回
月平均利用人数	98.0 人	92.3 人	△5.7 人
月平均利用回数	606.0 回	576.2 回	△29.8 回

②居宅介護事業

日常生活に支援が必要な障がいのある方々に対し、障害者総合支援法によるサービス利用計画に基づき居宅介護従事者を派遣し、利用者が可能な限り自宅で日常生活を営むことができるようサービス提供を行った。

また、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスの関係機関と綿密に連携を図り、利用者ニーズに沿った細やかな総合的サービス提供に努めた。

区 分	令和5年度	令和6年度	増 減
延利用者数	175 人	144 人	△31 人
延利用回数	1,562 回	1,403 回	△159 回
月平均利用人数	14.6 人	12.0 人	△2.6 人
月平均利用回数	130.2 回	116.9 回	△13.3 回

③相談支援事業

ア 障害者総合支援法の理念に基づき、障がいのある方々が自立した日常生活を営むために、必要な福祉サービスを適切に利用できるようサービス等利用計画書の作成やサービス提供が確保できるように、定期的にモニタリングを行うとともにサービス事業所との連絡調整等を行った。

イ 一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達状態の把握に努め、家庭環境や生活実態を知り社会的養護等の必要性を感じる場合は速やかに対応した。

家庭との連携を密にし、各関係機関と連携を図りながら、適切な保育、医療、教育が総合的に提供されるよう支援した。

区 分		令和5年度	令和6年度	増 減
障 が い 者	利用計画	97件	95件	△2件
	月平均	8.1件	7.9件	△0.2件
	モニタリング	186件	239件	53件
	月平均	15.5件	19.9件	4.4件
	認定調査	7件	8件	1件
障 が い 児	利用計画	145件	130件	△15件
	月平均	12.1件	10.8件	△1.3件
	モニタリング	123件	112件	△11件
	月平均	10.3件	9.3件	△1件

(3) 障がい児通所支援事業

①通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）

発達に遅れや障がいのある乳幼児・児童に対し、定期的な通園を通して、基本動作の習得や日常生活に必要とされる能力の発達を促すことを目的に、療育支援提供の充実に努めた。「ことばが遅い」「落ち着きがない」など保護者によってニーズは異なるが、子どもの発達状況を一緒に確認し、保護者の気持ちに寄り添うことに努めた。

少子化や他事業所の増加により、令和6年度より1日の利用人数を15人から10人に変更した。令和6年度は、新型コロナウイルスやその他の感染症による利用人数の減少はほぼ無かった。

区 分	令和5年度	令和6年度	増減
登録児数	112人	97人	△15人
児童発達支援事業 (1日平均)	2,057人 (8.9人)	1,624人 (6.9人)	△433人 (△2人)
放課後等デイサービス (1日平均)	611人 (2.6人)	797人 (3.4人)	186人 (0.8人)
年間延べ利用者数 (1日平均)	2,668人 (11.5人)	2,421人 (10.3人)	△247人 (△1.2人)

②子ども発達支援センター事業（三笠市、月形町委託事業）

発達に遅れや心配のある乳幼児・児童とその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受ける事が出来るよう、関係機関への情報提供を行い、地域の発達支援体制の充実に努めた。

三笠市の巡回相談は、令和6年度は3回の訪問を行い、10名の乳幼児に対して発達の評価及び今後の療育の方向性を確認した。また、保護者が作成するセルフプランについて助言を行った。月形町では、道立専門支援事業や特別支援教育相談支援チーム会議、担当者支援会議に参加した。令和6年度は延55件の相談があり、8件がつみき園の利用に結びついた。

療育講演会は、子ども総合医療・療育センターの医師に講演を依頼した。

□関係機関連携数

令和5年度	令和6年度	増減
13 機関	10 機関	△3 機関

□発達支援に関する相談件数（延べ件数）

区 分	市町名	令和5年度	令和6年度	増減
来所相談	三笠市	10 人	14 人	4 人
	月形町	10 人	6 人	△4 人
電話相談	三笠市	10 人	23 人	13 人
	月形町	12 人	12 人	0 人
合 計		42 人	55 人	13 人

□療育講演会

開催日時	令和6年9月13日（金）午後5時15分～午後7時00分
開催場所	オンライン及びいわみざわ健康ひろば
内 容	講演「こどもの困り事」の理解のために 講師 道立子ども総合医療・療育センター小児精神科医師 花香 真宣 氏
参加者数	72 人

7 法人運営

経営の健全化を目指すため、法人経営検討委員会を開催した。

開 催 日	議 題
令和6年8月7日 第1回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会第2期地域福祉活動計画について ・岩見沢市社会福祉協議会第3期発展強化計画について
令和6年10月30日 第2回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会第2期地域福祉活動計画の進捗状況について ・岩見沢市社会福祉協議会第3期発展強化計画の進捗状況について ・岩見沢市社会福祉協議会経営改善計画の進捗状況について
令和7年2月14日 第3回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会第2期地域福祉活動計画について ・岩見沢市社会福祉協議会第3期発展強化計画について ・岩見沢市社会福祉協議会経営改善計画の進捗状況について

8 事務局の運営

当会が事務局を担う岩見沢市共同募金委員会及び岩見沢市遺族会並びに岩見沢市老人クラブ連合会について、各会の目的に沿った事業の運営に努めた。

9 後援・共催・協賛

事業の後援・共催・協賛により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

(1) 後援

開催日	行事名等
令和6年5月18日	第75回花まつり
令和6年6月29日	2024男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ
令和6年8月30日・ 9月25日、10月23日	スマートフォン講習会
令和6年11月8日	健康と福祉を高めるセミナー・国保健康教室
令和6年11月24日	地域助け合い講演会「子ども真ん中～学びや育ちに困難を抱える子どもの良さを引き出すヒント～」

(2) 共催

なし

(3) 協賛

なし